2026 年 6 月 16 日

株式会社ヘッドウォーターズ

(コード番号：4011 東証グロース)

ヘッドウォーターズ、AI 駆動開発を個人依存から組織標準へ
AI エンジニアリング OS「SAIDDar」を展開

～Copilot Cowork／Claude Cowork の組織スキルとして整備し、
GitHub Copilot により標準設計から AI コーディング実装までを自動化～

AI プラットフォーム事業を手がける株式会社ヘッドウォーターズ（本社：東京都新宿区、代表取締役：篠田庸介、以下「ヘッドウォーターズ」）は、顧客向け AI 開発案件で蓄積してきた提案・要件定義・設計・実装・レビュー・テストの知見を、AI エージェントが実行可能な形に体系化した AI エンジニアリング OS「SAIDDar(SyncLect AI-Driven Development standard：サイダー)」を展開します。



SAIDDar は、顧客向け AI プロジェクトで実装してきた「Agentic workflow」のアルゴリズムを自社の開発プロセス（Agentic DevOps）に応用したものであり、ISSI(情報システム・ソフトウェア国際標準化機構)による AI 開発プロセス審査を経たグローバル水準の AI 開発フレームを型化しています。Copilot Cowork／

Claude Cowork の組織スキルとして整備し、GitHub Copilot と連携することで、標準設計から GitHub Issue 分解、AI コーディング実装、レビュー観点整理、テスト観点生成までを一気通貫で実行可能にします。

SAIDDar の前身となる AI 駆動開発手法を新規事業のシステム開発案件に適用した β 版検証では、要件定義からテストまでを含めた一連の開発工程において、ひとり当たり生産性が従来比 約 5～10 倍に向上することを確認しています。これにより、同一人員で対応可能な案件数の増加や、案件あたりの採算性改善が期待されます。

さらに、AI 駆動開発を「個人が AI を使う段階」から「組織標準として統制された段階」へ引き上げ、顧客が求める要求と、実際に出来上がる成果物との間のギャップを構造的に縮小し、案件で得た知見をクライアント企業やグループ会社・アライアンスパートナー企業へ水平展開可能な開発ナレッジとして蓄積していきます。

1. 市場背景：AI を使った開発は当たり前に、次は組織標準の段階へ

生成 AI や AI コーディングツールの普及により、AI を使って開発することは一般化しつつあります。一方で、AI 駆動開発を継続的に遂行するには、個人の AI 活用スキルや一部の熟練者に依存するだけでは不十分です。

次の段階では、単体の AI ツールを個人が使うだけでなく、複数の AI エージェントが開発工程に組み込まれ、提案、要件定義、設計、実装、レビュー、テストを連携して実行する Agentic AI 型のワークフローを、組織標準として運用できることが重要になります。

こうした環境下で、ヘッドウォータースは、顧客向け AI 開発案件で蓄積してきた開発知見を組織標準として体系化し、AI エージェントが実行可能な組織アセットとして展開する取り組みとして SAIDDar を推進します。

またヘッドウォータースは、顧客向け AI プロジェクトにおいて「Agentic workflow」のアルゴリズム導入により、顧客業務を Agent による高度自律実行型へ転換してきました。SAIDDar は、その「Agentic workflow」の仕組みを自社の開発プロセス(Agentic DevOps)に応用し、開発プロセスの効率化と品質向上を実現する取り組みです。

2. AI エンジニアリング OS とは

本リリースにおける「AI エンジニアリング OS」とは、一般的なオペレーティングシステムを指すものではなく、AI 開発案件に必要な提案・要件定義・設計・実装・レビュー・テスト・変更管理の知見を組織標準として体系化し、AI エージェントが各工程で実行可能にすることで、AI 駆動開発を個人依存から組織標準へ移行させるための開発実行基盤を指します。

ここでいう「組織標準」とは、開発ルールやテンプレートを整備するだけでなく、提案・要件定義・設計・実装・レビュー・テスト・変更管理の進め方をオントロジーとした上で AI エージェントが実行可能な形にし、案件や組織をまたいで再利用できる状態を指します。

AI エンジニアリング OS の「OS」は、AI 開発案件を動かすための共通基盤、実行環境、接続基盤、ガバナンス、継続アップデート、移植性を意味します。つまり、AI 開発ノウハウを人に閉じず、組織・グループ会社・パートナー企業へ水平展開できる状態にするための比喩的な実行基盤です。

なお、SAIDDar が体系化する AI 開発フレームは、ISSI による AI 開発プロセスの第三者審査を経ており、グローバル水準で型化されています。さらに、Microsoft Solutions Partner / Specialization 認定水準のガバナンス統制を効かせた AI 開発ワークロードを、再現可能な実行基盤(OS)として提供していきます。

3. SAIDDar とは：組織標準化した開発知見を AI エージェントが実行可能にするアセット

SAIDDar は、AI 開発案件の進め方を AI エージェントが使える形にした AI エージェントアセットです。提案、要件定義、設計、実装、レビュー、テスト、変更管理までの進め方や判断観点を体系化し、担当者の経験に依存しがちな案件遂行を、組織標準として再現性高く進められる状態に近づけます。

概念的には、SAIDDar は単一の AI エージェントではなく、複数の工程・成果物・AI エージェント・開発ツールをつなぐ Agentic AI 型の開発実行モデルです。

SAIDDar は、静的な手順書やテンプレートではありません。組織標準化した開発知見を、AI エージェントが工程ごとに実行可能にすることで、AI 駆動開発を個人依存から組織標準へ進化させます。

4. SAIDDar により実行可能になること

SAIDDar により、顧客から受領した RFP や要件情報をもとに、提案・要件定義・設計の成果物を生成・整理し、標準化された設計内容を GitHub Issue へ分解できます。

さらに、GitHub Copilot を用いることで、Issue を起点に AI コーディング実装へ接続し、レビュー観点やテスト観点の整理までを一気通貫で実行可能にします。

これにより、提案から設計、実装、レビュー、テストまでの工程を組織標準として整え、定型的な成果物作成、タスク分解、AI コーディング実装を自動化することで、立ち上がりや手戻りを抑えます。結果として、顧客が求めていた要求と、実際に出来上がる成果物との間のギャップを構造的に縮小し、高品質・高再現性の AI 駆動開発を継続的に提供します。

5. SAIDDar の 3 つの提供価値

① AI 駆動開発を個人依存にしない

AI 開発案件の進め方を AI エージェントが使える形にすることで、担当者の経験や個人のプロンプトスキルに依存しがちな提案・設計・実装・レビュー・テストを、組織標準に沿って進めやすくします。

② 標準設計から AI コーディング実装までを接続する

Copilot Cowork／Claude Cowork で整理した提案・設計成果物を、GitHub Issue へ分解し、GitHub Copilot による AI コーディング実装へ接続します。

③　案件をこなすほど組織標準が進化する

案件で得た知見を SAIDDar へ還元することで、AI エージェントが活用できる開発ナレッジを蓄積し、組織標準を継続的に更新します。その知見は次案件やグループ会社・パートナー企業への水平展開に活用します。

6. 顧客提案・案件遂行における位置づけ

ヘッドウォータースでは、SAIDDar を顧客向けの提案活動や案件遂行プロセスに用いています。SAIDDar を前提に、提案フェーズでの成果物作成、要件定義・設計工程の整理、GitHub Issue へのタスク分解、レビュー・テスト観点の整理などを行うことで、案件ごとの進め方や成果物粒度のばらつきを抑え、提案から開発・運用までを一貫したプロセスで進めます。

SAIDDar は、まずヘッドウォータースの顧客向け AI 開発案件における案件遂行アセットとして展開し、その知見をもとに顧客企業向けの開発標準 AI エージェント化へ広げていくことを視野に入れています。

7. グループ会社・パートナー企業への水平展開

ヘッドウォータースは、SAIDDar をまず自社の顧客向け AI 開発案件で活用し、そこで得た知見を、グループ会社やパートナー企業へも展開できる開発アセットとして整備しています。

SAIDDar は、提案・要件定義・設計・実装・レビュー・テスト・変更管理までの AI 開発ノウハウを、AI エージェントが実行可能な組織標準として体系化したアセットです。AI 開発経験が限定的な開発会社であっても、SAIDDar を用いることで、標準化されたプロセスに沿って AI 開発案件へ対応しやすくなります。

8. 使うほど強くなる仕組み：案件知見を組織標準へ還元するナレッジフライホイール

SAIDDar は、各案件で得た改善や知見を SAIDDar へ還元し、標準・テンプレート・エージェント定義を継続的に更新することで、案件をこなすほど AI エンジニアリング OS としての組織標準が進化するナレッジフライホイールを形成します。

案件ごとの経験を一過性にせず、次案件で再利用できる AI エージェントアセットとして蓄積することで、AI 開発案件の再現性、品質確認観点、提案・設計・実装のスピード向上につなげます。

9. 要件追加・仕様変更に対応しやすい開発プロセスへ

SAIDDar では、各フェーズの成果物が次工程のインプットになります。要件追加や仕様変更が発生した場合も、必要なフェーズから AI エージェントを再実行することで、後続工程の成果物を更新し、開発プロセス全体の整合性を保ちやすくします。

これにより、従来は前工程へ戻る負荷が大きかったウォーターフォール型開発に対して、AI を用いた“やり直せるウォーターフォール”として、変更に強い AI ネイティブな開発プロセスを目指します。

10. SyncLect Data Intelligence との連携による開発ナレッジ活用の高度化

ヘッドウォータースでは、SAIDDar と SyncLect Data Intelligence との連携も進めています。SAIDDar で生成・管理される提案資料、要件定義、設計書、GitHub Issue、レビュー結果、テスト結果、変更管理情報などをナレッジとして蓄積・活用することで、案件横断での知見再利用、品質確認観点の高度化、提案・設計・実装プロセスの継続的改善を目指します。

また、開発領域で整備した AI エージェント化の仕組みは、営業・管理部門などワークフロー化可能な業務領域にも応用できる可能性があります。今後は、SyncLect Data Intelligence や営業エージェント等との連携を通じて、企業内ナレッジを AI エージェントが活用する仕組みの高度化を進めてまいります。

11. ガバナンスと品質確認プロセス

SAIDDar では、AI エージェントによる成果物生成や AI コーディング実装の自動化を前提としつつ、上流ドキュメントや顧客向け成果物については人間によるレビューを重視します。

また、エージェントや標準ルールの変更を SAIDDar へ取り込む際には、責任者による確認・判断を行う運用体制を整備し、品質確認とガバナンスの両立を図ります。

今後は、AI エージェント活用に伴うセキュリティリスクへの対応、Git 運用上のセキュリティチェック、顧客向け成果物の品質確認プロセスなども含め、より実運用に即したガバナンスを強化していきます。

12. 今後の展開

今後、ヘッドウォータースは SAIDDar の展開を通じて得た知見をもとに、顧客企業向けの開発標準 AI エージェント化、GitHub Copilot 活用定着、AI 駆動開発プロセス整備、開発ナレッジ活用基盤の構築、内製化などへ広げていく予定です。

また、グループ会社やパートナー企業への水平展開を通じて、AI 駆動開発の組織標準を移植・再利用できる体制を整え、AI 開発経験が限定的な開発会社でも AI 開発案件へ対応しやすくなる仕組みづくりを進めます。

これにより、ヘッドウォータースグループ全体の AI 開発対応力を高め、AI ソリューション事業の拡張と顧客企業への提供価値向上を目指します。

なお、本件による当社の当期業績に与える影響は軽微であります。今後開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。

以上

■ **参考情報**

- ヘッドウォーターズ、暗黙知を AI 活用が可能な構造化データへ変換する「SyncLect Data Intelligence」を発表
  https://www.headwaters.co.jp/news/aisynclect_data_intelligence.html

- ヘッドウォーターズ、GitHub 認定パートナーとして「Agentic DevOps ソリューション」の提供を開始
  https://www.headwaters.co.jp/news/github_partner_agenticdevops.html
- AI エージェントによる自律的なソフトウェア開発を支援する「AI 駆動開発/バイブコーディング」CoE サービスを開始
  https://www.headwaters.co.jp/news/aidriven_development_vibecoding_coe_service.html
- 株式会社ヘッドウォーターズ、RAG を活用した複数 AI エージェントによる自律業務遂行で「Agentic Work Flow」の正答率 99%を達成
  https://www.headwaters.co.jp/news/achieved_99_accuracy_rate_agentic_workflow.html

■ **商標について**

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

■ **会社情報**

会社名：株式会社ヘッドウォーターズ
所在地：〒163-1304　東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー４階
代表者：代表取締役　篠田 庸介
設　立：2005 年 11 月
URL　：　https://www.headwaters.co.jp/

■ **本件のお問い合わせ先**

株式会社ヘッドウォーターズ
メール：info@ml.headwaters.co.jp